

会員の
ひろば

私のお薦めコーナー
近場公園紹介シリーズ『石山緑地』

知 本 康 男

1. 石山緑地ってどこ？

今回は『石山緑地』を紹介します。ここは札幌中心部から国道453号を經由して車で約30分の南区石山エリアにあります。地下鉄真駒内駅から路線バスでも行けます。有名ですので既に訪問されたことがある方も多いと思います。本稿では『石山緑地』の中でもアート感覚が研ぎ澄まされる南ブロックを取り上げてみます。

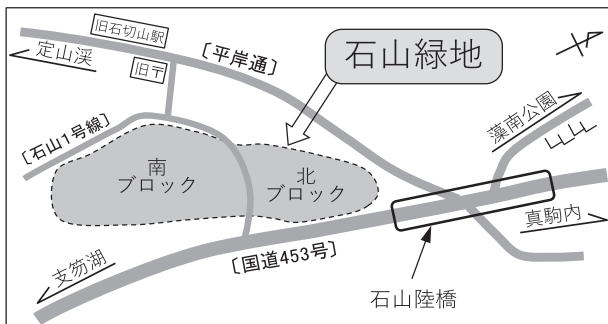


図-1 石山緑地のロケーション

2. まずは札幌軟石

ここは札幌軟石の産地で、明治から昭和初期には建材として多くの石材を供給し、その切り出し場所が公園として整備されて石山緑地となりました。有名なところでは道庁旧本庁舎、小樽運河倉庫群や北大の門壁に札幌軟石が使用されています。しかしコンクリートの普及とともにその需要は減ったとされます。2018年に北海道遺産に登録された札幌軟石は軟らかく加工しやすいことから、今はアクセサリとして手にすることができます。木工用のこぎりでも簡単に切削できます。だからと言って石山緑地をのこぎり片手でウロツいたら捕まりますよ。

石山緑地の直ぐ近くでは図-1に旧千と示した『ぼすとかん』が札幌軟石で建造されています。平岸通

に沿ってかつて定山溪鉄道が通っており、旧千の向かいに残る旧駅舎『石切山』の基礎部にもちゃんと札幌軟石が使われています。札幌軟石の切り出し跡は、石山陸橋から藻南公園へ下る市道の右側の山肌にも特徴的に見られ、清田区の有明や南区常盤でも見ることができます。

3. 多彩なアート空間

南ブロックには、かつての石材切り出し面を巧妙に活かした空間が広がっています。そこには多くのアート作品(オブジェ)が屋外展示されています。代表的なアート作品として『スパイラルスプリング』、『赤い空の箱』、『ネガティブマウンド』などがあり、キューブ状のオブジェも点在しています。休憩所の椅子や電灯の基礎などにも石材がふんだんにアート感たっぷりで使用されています。



写真-1 南ブロックで観られるオブジェの数々

私の一番のお気に入り、やはりネガティブマウンド(つまり凹みってことですね)です。写真-1の最上部に掲載していますが、本誌表紙やグラビア

P1 のカラー写真をご覧ください。まるでイタリアのコロッセオ(中世の円形闘技場)を彷彿させます。見る人によっては中南米の遺跡にも見え、まさに石造りの迷宮のようです。ワンパク少年には“ごっこ”遊びの最高のサイトになるに違いありません。

これらのアート作品を見るには、南ブロックの北端に設置されているジオラマ(写真-2)を、まず始めに確認することをお勧めします。これもアートのひとつなのでしょう。

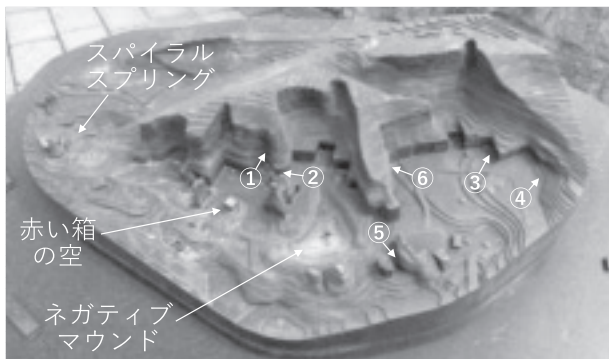


写真-2 南ブロックのジオラマ

また、南ブロックではアートだけではなく、岩壁面にたぬき掘りのような神秘的な空洞(写真-2 中の地点①、グラビア P5)があったり、カップドキアの奇岩に似た搭状岩体(同地点②)なども見ることができます。まずは飽きない 30 分を過ごすこと間違いありません。

4. ちょっと解説

ここでブラタモリ的な解説を少しだけ。札幌軟石を形成する地層は、支笏軽石流堆積物 Spfl と呼ばれる火砕流堆積物です。そして札幌軟石の岩石名は凝灰岩もしくは溶結凝灰岩と言います。

約 4 万年前に旧支笏火山がカタストロフィックな大噴火を起こして膨大な噴出物をもたらしました。それは火砕流として石狩平野まで流れてきて台地を形成しました。そして堆積する時に厚く堆積した場所(例えばここ石山エリア)では自らの熱と重みで固化して溶結凝灰岩となりました。石山地区より北側の札幌市内では月寒公園や天神山緑地(平岸)の切割でこの Spfl を垣間見ることができます。胆振東部地震の際に液状化被害を受けた里塚エリア一体

もこの Spfl が基盤となっています。

さて、ここからは土石収集マニア向けの情報です。石山緑地では、高い切取り斜面には近づけないようにフェンスが張り巡らされています。ただし、札幌軟石(つまり溶結凝灰岩)を地山の状態で直接手で触れられる箇所があります。それは写真-2 に示す地点③(グラビア P6)の壁面です。ここでは紡錘状に延びた軽石粒がはっきりと観ることができます。また、割れ目に侵入した植物根の凄まじい生命力も観察できます。是非、チェックされたし。

そして地点④や地点⑤では、なんと溶結凝灰岩の石を拾うことができます。そして Spfl の主要構成物である軽石は地点⑥あたりで拾えます。これが約 4 万年前の大噴火の産物と考えると、落ちていた軽石を手に取り地球の壮大なイベントにイメージを膨らませることも楽しいかもしれません。まあ、公園内の公共空間に落ちている土石ですので持ち帰っても支障はないと思います。くれぐれも柵を超えてはいけませんよ！

5. 行ってみよう！

アートも素晴らしいけど、同時に公園がある丘陵地形の成り立ちや石材を切り出した頃の歴史感も味わって貰えればとても嬉しいです。

『石山緑地』は支笏湖方面や定山溪方面へのドライブの帰り道に簡単に立ち寄ることができるロケーションです。秋のドライブルートに是非組み込んでみては如何でしょう。

知 本 康 男 (ちもと やすお)

技術士(建設/応用理学/総合技術監理部門)

基礎地盤コンサルタンツ(株) 北海道支社

